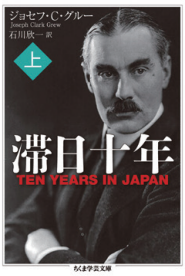
世界平和を願う

「ミス三重」と駐日大使グルー

前列右側がグルー氏

展示の様子とフライヤー



平和を願う人形たち
平和を願う人たち

青木 勝

日米親善人形交流95年を記念する『「ミス三重」の展示』がネブラスカ州立大学博物館にて2022年10月まで開催されています。

「ミス三重」は、1927年12月に58体の答礼人形とアメリカに渡り、各地巡回の後、翌年の10月26日にネブラスカに到着しました。多くの道具類や子どもたちの手紙などが保管されています。彼女は1988年の「ミス日本」を代表とする19体の里帰りの中の1体として初めて来日しました。2009年の修復里帰りの際には県内各所を訪問、そして2017年に『人形大使「ミス三重」90周年里帰り展』のため3度目の里帰りを果たしています。答礼人形「ミス三重の会」の皆さんは、県内の青い目の人形を見守りながら、2010年にはネブラスカ訪問をするなど現在も活動を続けています。

ネブラスカでも「ミス三重」の企画展示が積極的に続けられています。前館長のプリシアさんのご主人エドワード・グルーの大叔父は、駐日米国大使グルーです。また大使夫人アリスはペリー提督の子孫です。日本を愛したジョセフ・クラーク・グルーは、1932年6月に日本大使に就任、不穏な政情の日本の中で、二・二六事件から開戦までそして戦後の軟禁生活を経て1942年6月の帰国までの歴史的記録を『滞日十年』に著しています。滞日中は日米開戦回避に努め、戦後は天皇制存続、天皇の免責に腐心して、帰国後は日本理解を説き、ポツダム宣言にも深く関与した、忘れられた日本の恩人です。

親日家のグルー大使夫妻の平和への願いと同じく、シドニー・ギューリック博士が青い目の人形を提唱して渋沢栄一翁と共に実現した人形交流は、270万人のアメリカ人と260万人の日本人が関わった歴史的出来事です。いつまでも友情人形「青い目の人形」と「答礼人形」が話題になり、お互いの絆を深め、国を越えて日米親善、世界平和に結ばれるよう望んでいます。

●ジョセフ・グルー関連図書●

『滞日十年』（上・下）石川欣一　訳
『日米外交とグルー』麻田貞夫
『象徴天皇制への道』中村政則
『白頭鷲と桜の木』船山喜久彌
『真の日本の友「グルー」』広部泉
『日本開戦の悲劇』福井雄三
『駐日米国大使ジョセフ・グルーの昭和史』太田尚樹